

「特別の教科 道徳」指導資料

Heart of heart

タイトルの「Heart of heart」は、「心の拠り所」という意味があります。釧路管内の子ども一人一人が自分の「心の拠り所」をもち、力強く生きるための内面的資質を育ててほしいという願いを込めています。

また、釧路管内の先生方が「特別の教科 道徳」を指導する際の「心の拠り所」として本資料を活用し、道徳科の指導力の向上につながることを期待しています。



釧路市立武佐小学校
2年 柴田 昊空

令和元年度
いじめ・ネットトラブル根絶！
メッセージコンクール



釧路市立桜が丘中学校
3年 佐藤 寿翔斗

- 1 道徳科の特質を踏まえた授業づくり～理論編～
 - ・道徳科の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
 - ・「考え、議論する道徳」・・・・・・・・・・・・・・・・P 1～3
 - ・道徳科における深い学び・・・・・・・・・・・・・・P 3
 - ・道徳科における学習評価・・・・・・・・・・・・・・P 4
- 2 道徳科の特質を踏まえた授業づくり～実践編～・・・・P 5～6
- 3 複式学級における道徳科の指導・・・・・・・・・・・・P 7

令和2年（2020年）3月

北海道教育庁釧路教育局教育支援課義務教育指導班

道徳科の特質を踏まえた授業づくり

理論編

道徳科の目的とは？

道徳科の目的を確認してみましょう。
ひとことで表すと道徳性を養うことが目的ですね。

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる**。

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 ※ () は中学校



学校教育における道徳性の捉え方

道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道徳的実践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え



道徳性とは何ですか？

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性です。

道徳教育は左にあるような道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を育てることを求めています。




「考え、議論する道徳」とは？

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。(道徳科の目標)



「考え、議論する道徳」のヒントは目標に示されています。

このような学習を通して、道徳性を養っていくことが大切です。ポイントは4つ！

- 問題意識をもつ
 - 自分との関わりで捉えて考える
 - 多面的・多角的に考える
 - 自らを振り返り、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める
- 

} **→ P 2 へ**
} **→ P 3 へ**

問題意識をもつ

子どもにとって身近で切実な問題の例

- ・友達からよくない遊びに誘われると、一緒にやってしまう。
善悪の判断、自律、自由と責任
- ・ゲームを夜中までやってしまい、朝、自分で起きられない。
節度、節制
- ・相手の過ちが許せず、けんかが絶えない。
相互理解、寛容

教材の中に描かれている問題の例

- ・遙か昔、遠い国のことだけど、重要なことなので考えてほしい。
- ・偉大な人物の生き方に学んでほしい。
- ・もし、こんなことが起きたら、よく考えて、よりよい判断ができるようになってほしい。 など

きまりが守れない要因は？

- ・きまりは自由を制限するもので肯定的に受け止められていない。
⇒道徳科では、きまりを守ることが、みんなが気持ちよく生活できるようになることに気付かせ、社会のきまりを守ろうとする **心情を育てる**。
- ・周囲に目が向けられず、自己中心的な言動により、きまりが守られていない。
⇒道徳科では、きまりの意義を理解し、みんなのことや周りの状況を考えて、きまりを守ろうとする **判断力を育てる**。

道徳科の授業は、教材から学ぶことも大切ですが、内容の理解にとどまるのではなく、教材を活用して生き方を学ぶ時間です。
そのため、問題意識をもつことが大切です。



道徳科では、自己の生き方について考えることが大切です。

そのため、中心となる登場人物の立場や心情に共感したり、反感を覚えたりしながら、これまでの自分の体験から感じたこと、考えたことを基にして気持ちなどを考えることが大切です。



自分との関わりで捉えて考える

自我関与とは

ある事柄を自分のもの、あるいは自分に関係があるものとして考えること

どちらが道徳科の学びでしょうか？

- ✕ 登場人物の気持ちに共感する。
- 登場人物に共感して気持ちを考える。

・・・の立たされた状況や立場

これまでの自分の体験から感じたり、考えたりしたことを基にして・・・

多面的・多角的に考える

対話的な学びを通して、他者と対話したり、協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、子ども自らが、様々な視点から物事を理解する。



価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること

他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

道徳的諸価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）や主とする内容項目と関連する内容項目を踏まえて考えるように、教材分析をすることが大切です。



自らを振り返り、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

例えば

- 子どもが道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。
- 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- それとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

考え、議論する道徳

考える

- ・主体的に
- ・自分との関わりで

自分の感じ方、
考え方を
明確にする

- ・多様な感じ方、
考え方との出会い
- ・交流する

自分の感じ方、
考え方を
より明確にする

「考え、議論する道徳」とは、主体的に自分との関わりで考え、自分の感じ方、考え方を明確にし、多様な感じ方、考え方と出会い交流することで、自分の感じ方、考え方をより明確にすることです。



道徳科における深い学びとは？



4つのポイントを意識して授業を構想することが大切ですね。

道徳科の特質については、理解できましたね。
さらに深い学びにするために、明確な指導の意図をもつことが大切です。



教師の指導の明確な意図（指導観）とは

道徳科の授業で、子どもが自らの生き方について考えを深めるために、欠かすことのできない**指導の方向性**

道徳科の授業で、子どもに**どのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのか**を明らかにすること

具体的には、
どのようなことを
考えたらよい
のですか？



右のような具体的な指導観をもつことが大切です。

明確な指導観を基に授業を構想することにより子どもにとって、新たな気付きや変容が生まれる深い学びが実現できます。



明確な指導観

明確な指導観＝価値観＋児童生徒観＋教材観

授業者の
価値観

①本時の内容項目では、このような指導が大事と考えています。

児童
生徒観

②学校生活の中でこのような指導をしてきました。
③結果、現在子どもはこのような実態です。
④このことから本時でこのようなことを考えさせることが必要と考えます。

教材観

⑤そのために、この教材を活用し、このような発問をしたり、このような指導の工夫を行ったりします。

明確な指導観を一貫してもつ

道徳科における学習評価とは？

道徳科の評価の基本的な考え方

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

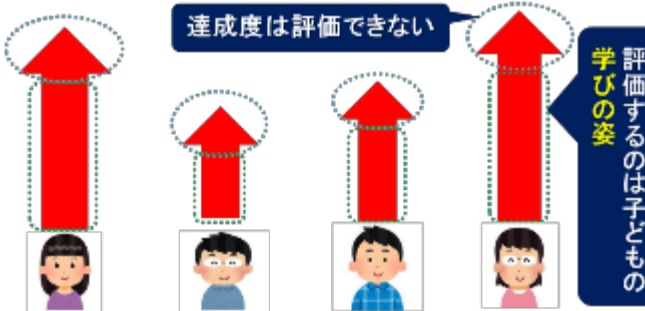
道徳科で養う道徳性は、子どもが将来いかに人間としてよりよく生きるか、いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。このことから、どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。

道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。

評価に当たっては、特に、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。

教師の指導の明確な意図

道徳科の授業のねらい



教師はねらいを設定して授業に臨みますが、他の教科とは異なり、「道徳的価値がどれだけ理解できたか」「道徳性の様相がどれだけ育ったか」をゴールとして子どもの評価は行わないことが大切です。



道徳科の授業における評価

他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している。

多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている。



4つの授業づくりのポイントを意識して授業を行えば、評価は難しくありません。

教師が明確な指導観をもち、授業で期待する子どもの姿を具体にした指導が大切です。

綿密な計画があるからこそ評価することができます。



道徳科の評価（通知表）の文例

②どのような姿（発言、記述等）が見られたか。

①どのような学習をしたか。

①自分の経験を振り返り、自己の生き方についての考えを深めるという目標に向けて学習を重ねる中で、②教材の世界に浸り、考えを深めながら、③自分がその状況下においてどのような判断で行動するか考えられるようになってきました。

③ねらいに向けてどのような点で評価できるか。

道徳科の特質を踏まえた授業づくり 実践編

小学校第3学年 道徳科学習指導案（例）

1 主題名
長所を伸ばすよさ A 個性の伸長

2 教材
「うれしく思えた日から」
文部科学省 小学校道徳 読み物資料集

「価値観」は、学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」を確認するのですね。



3 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道徳的価値について 【価値観】

個性の伸長とは、自分のよさを生かすことであり、(中略) そのために、自分のよさについて改めて考えることや、短所に気付いてそれをどういう気持ちで改めていくのかについてじっくりと考えさせる指導が大切である。

3年生が自分の特徴に気付くとは、(中略) 児童にはこのような長所を伸ばす大切さやよさについて多角的に考えさせたい。そして友達との交流の中で認め合う場をつくったり、教師がよい所を積極的に伝えたりして、自分のよい所に気づき、さらに伸ばしていこうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

長所を伸ばす大切さやよさに気づき、自分のよさを一層伸ばしていこうとする態度を育てるために、道徳科以外では、以下のような指導を行っている。

① 各教科等での指導

ア 国語科「自分を見つめて」

自分の長所を伸ばす大切さやよさに気づき、自分のよさを一層伸ばしていこうとする態度を育てるために、(中略) しかし、長所を伸ばす大切さやよさに気づき、よさを一層伸ばそうとする気持ちについては自分との関わりでさらに考えを深める指導をする必要がある。

イ 図画工作科

(略)

② 日常の指導

朝の時間の教育活動の一つとして、自分のよい所や悪い所などに気付くことができるように、自分の様々な感情を見つめ、どのようなときにそういう気持ちになるのかを振り返らせた。(中略)

以上のような実態から、本時は、学校の教育活動全体で行う道徳教育をさらに深めることを意図して指導を行いたい。

「児童(生徒)観」は、これまで行ってきた道徳教育全体を踏まえ、本時の内容項目に関わって、これまでどのような指導をしてきたかを明らかにするのですね。



(3) 教材について【教材観】

① 概要
(略)

「教材観」は、この教材でどのような発問や学習をするのかを計画するのですね。



② 教材活用の工夫

長所を伸ばす大切さやよさについて多角的に考えさせるために「自分も大事な一人」と思えるようになったばかりの気持ちを中心に話し合い、他者理解・価値理解を深めさせる。まず、発問の一つ目では、自分のよさに気付かないときの気持ちを考え人間理解を深めさせるために、(いいところなんてひとつもない)と思う気持ちを話し合わせる。また、発問の二つ目では、よさを一層伸ばしていくことについて話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。そのために、投げること以外の走りこみやノックにも努力しているときの気持ちに着目して考えさせる。

4 ねらい

自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていこうとする態度を育てる。

5 学習指導

学習方法

導入

1 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
○自分のよいところ、悪いところは意識したことがありますか。

自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
の方向付けをする。

展開

2 教材「話し合う」
○「ぼく」が（いいところなんてひとつもない）と思っていた時、どのような気持ちだったでしょうか。
・自分が情けないな。
・みんなはいいなあ、いい所があつて…。
・自分が好きになれないな。
○「ぼく」が走り込みや素振りやノックをへとへとになるまで頑張っている時、どのような気持ちだったでしょうか。
・一つでも得意なことをつくりたい。自信をもてるものがほしい。
・せっかく初めて自分がやると決めたことだからちゃんと練習したい。
・肩がいいから、練習したら野球がうまくなるかもしれない。うまくなりたい。
◎「ぼく」が「自分も大事な一人」と思えるようになったのは、どうしてだと思いますか。
・得意なもの、好きなことを見つけて頑張ろうと思えるようになった。
・みんなが認めてくれるし、応援してくれるようなお守りができた。
・一緒に頑張る野球仲間ができたことで気持ちが変わることができた。

自分ごととして考えられるよう、問題意識を高めているね。

○よい所に気付かないときの気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。

○よさを一層伸ばしていこうとするときの気持ちを考えさせる。

「ぼく」の立場に共感し、自分との関わりで考えるようにしているね。

○長所を伸ばすときに生まれるよさについて多面的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。

【評価】
友達との話し合いを通して、自分の特徴に気付き、よい所を伸ばしていくこと、よさや大切さについて多面的・多角的に考えている。

「自分のよいところ」だけでなく、「周りの人の応援」や「一緒に頑張っている仲間」など、多面的・多角的に考えるようにしているね。

○自分をしっかりと見つめることで自己理解を深めるために、ワークシートを活用する。

自らを振り返り、自己の生き方についての考えを深めることができるようにしているね。

閉

3 自分の生活を振り返る。
○得意なもの好きなことをもっと伸ばして、うれしかったことやよかったと思えたのはどのようなときですか。

終末

4 教師の説話を聞く。

いこうとする意欲をはぐくむ。



複式学級における道徳科の指導とは？

学校において2以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科及び道徳科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

複式学級の場合においても、児童（生徒）の学年に応じた教育課程を編成することが必要である。

（中略）

学年別の順序によらないことができるのは、複式学級において「特に必要がある場合」で、「各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内」に限られていることに留意する必要がある。

小（中）学校学習指導要領解説 総則編 「複式学級の場合の教育課程編成の特例」



2つの学年の場合、発達の段階に差があります。どちらの学年の子どもにも発達の段階に応じたねらいを設定し、指導上の工夫をする必要があります。こうしたことから、学年別での指導を基本にし、道徳科の目標を達成することが大切です。

指導の
しやすさ



発達の段階に
応じたねらい

児童生徒
による
話し合い



多様な考えの
提示など、
指導上の工夫

基本は学年別の指導

複式学級における学年別の指導の例

- 内容項目を2つの学年で同じにし、導入は2つの学年を一緒に、展開前段は「わたり」、展開後段、終末は2つの学年を一緒に指導するなど、学習指導過程を工夫する。
- 音声機器などを活用し、教材を読むタイミングをずらして、「わたり」で指導する。
- テーマや考えさせることは教師が提示し、その後は各教科等で行っているリーダー学習を生かして進める。
- 多様な考えがもてるよう、ICT機器を活用し、映像や画像を提示できるよう事前に準備する。等

極小規模校では、話し合い活動が難しいこともありますが、「深い学び」が実現できるよう、多様な考えの提示やICT機器の活用など、工夫することが大切です。



道徳科の授業は面白い！
まずは、やってみよう！

Let's 道徳科！



参 考 資 料

道徳教育アーカイブ ～「道徳科」の全面実施に向けて～
文部科学省では、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「道徳教育アーカイブ」を同省Webページに開設し、授業づくりの参考となる映像資料等を提供しています。
<https://doutoku.mext.go.jp/>

北海道教育委員会 道徳教育

「『特別の教科 道徳』の充実に向けて」、「『特別の教科 道徳』の評価について」等の資料を掲載しています。
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kyouikukatei/page.htm>